

第79回麻布獣医学会 一般講演7

Acetylhdroxyproline (AHYP) を用いた 小動物に対する創傷治療効果の検討

高橋 徹¹, 丸山 敬¹, 近藤 厚¹, 澤田 謙治¹, 長野 友則¹,
附田 由紀¹, 古橋由美子¹, 島田健次郎²

¹高橋動物病院, ²協和発酵工業株式会社

1. はじめに:

Acetylhdroxyproline (AHYP) とは4-Hydroxy-L-proline のアセチル化体である。ヒトにおいては、変形性関節症及び慢性関節リウマチに効果が認められている。作用は抗炎症作用が示唆されているが、そのメカニズムはNSAIDとは異なる。好中球の内皮細胞への吸着及び血管外への遊走の抑制が認められる。また創傷の治癒などにも効果的である。演者らはAcetylhdroxyproline (AHYP) を2.5%含有したクリームを使用して各種創傷治療効果について検討した。

2. 材料および方法:

対象とした動物種は、当院に2000年12月31日から2004年6月15日の間、来院した犬、猫、及びウサギの200症例で、肛門腺自潰、化膿自潰、糜爛、術後傷の治癒遅延など多種の創傷に使用した。創傷の種類によって塗布方法が異なり死腔のない創傷には全面塗布を、死腔のある創傷にはシリンジポンプにクリームを入れ留置針外套あるいはカテーテルより注入した。AHYPの効果を見るうえで、消毒は生理食塩水かイソジンを使用し、抗生剤は使用しなかつ

た。処置としては、縫合処置か、包帯処置か、開放処置とし、抗生剤は全身投与とした。

3. 成績及び考察:

肛門腺自潰(53例)で著効94.3%, 有効1.9%, やや有効3.8%。糜爛(28例)で著効82.1%, 有効14.3%, 無効3.6%。化膿(26例)で著効73.1%, 有効3.8%, 無効23.1%。術後(25例)で著効84.0%, 有効12.0%, 無効4.0%。潰瘍(16例)で著効75.0%, 有効18.8%, やや有効6.2%。腫瘍自潰(13例)で著効46.2%, 有効15.4%, 無効38.4%。表皮嚢胞自潰(12例)で著効100%。裂傷(9例)で著効100%。ウサギの腫瘍(7例)で著効71.4%, 無効28.6%。耳血腫(5例)で著効60%, 有効20%, 無効20%。歯根腫瘍(4例)で著効100%。腫瘤内注入(1例)で無効。火傷(1例)で著効であった。症例全体で見ると著効82.5%, 有効7.5%, やや有効1.5%, 無効8.5%, 悪化はなかった。副作用は一例もなく全体的に肉芽形成、皮膚再生が速やかであり、有効な結果が得られた。